

米商進路だより

令和5年10月17日発行
山形県立米沢商業高等学校
進路指導部（第21号）

《 高卒採用活動の現状 》

就職試験の合否発表が佳境を迎えています。また、公務員試験の1次試験が終了し2次試験に向けて面接練習を開始した人がいて、これからの面接や適正検査を突破して合格を掴みとってほしいと思っています。1・2年生にとっては、進路はまだまだ先のことと捉えるのではなく、少し先の自分のことを想定してください。本日は高卒と大卒の初任給の違いについて紹介です。 単位:千円

地域	全産業		製造業		宿泊・飲食サービス業	
	高校	大学	高校	大学	高校	大学
宮城(26)	172.7	218.5	172.3	219.9	189.6	-
山形(47)	167.2	209.1	167.4	218.2	164.9	193.0
東京(1)	199.6	239.2	181.7	227.8	210.7	219.6

山形県と東京都の給与を比較してみると、東京都は第1位、山形県は全国順位で見るとご覧のとおりで、初任給の高い東京への流出が心配されるのは事実です。しかしながら、就職後の定着率は県内就職が高くなっている調査結果もあり、「給与」以外の福利厚生（休暇制度等の従業員が日々働きやすい環境）を重視する傾向があることも参考にしなければならないことなのです。

その上で、学校として大切にしているのがキャリア教育の推進です。1年生では、企業説明会で企業名を知り、WAKU WAKU WORK で企業の事業内容を体得します。2年生では、置賜管内の企業訪問をして働く姿を見ることで意識を高め、更にインターシップ（1日）をして働くことの意義を理解することにしています。つまり、日々の学校生活において、将来の自分の姿について考える時間を提供しているのです。

そのことを他人事として捉えるのではなく、自分の事であることを自覚してください。かつて、受験競争が激しい時代にある予備校の教室に「日々是決戦（ひびこれけっせん）」と掲げられ、毎日が勝負であるがごとく勉強時間の確保が求められた時代がありました。受験に打ち勝つためには、人の何倍も努力をしなければならないという意味だと思われませんが、そのことは今も変わらない実態があります。

生成AI、DX、IoTといった仕事の効率化や生産性の向上を目指す時代の中で高校生や大学生に求められるスキルも高くなっています。また、令和5年度の最低賃金改定状況は下記のとおりで、8つの都府県で時間給が1,000円を超えました。山形県が1,000円を超える日はもう少し先のことだと思います。優秀な人財（人材）の確保をするための待遇改善をする企業が増加しています。

地域	最低賃金時間額（円）	発行年月日
全国平均額	1,004（961）	—
山形	900（854）	令和5年10月14日
東京	1,113（1,072）	令和5年10月1日

《 探究活動（校内） No1 》

10月12日（木）に3年生課題研究映像班が制作した企業動画の合評会を実施いたしました。実際に制作した企業の皆様を学校に招待しての発表会で、校内で2回リハーサルを実施して当日を迎えました。企業紹介をするにあたっての見どころ等も含めて発表し、企業からは「想像以上のクオリティの高さに驚きました」という声もいただいております。今後、更なる修正を加えて1・2年生に授業中に公開予定です。



発表の様子 生徒代表感想発表（中央）

《 探究活動（校外） No2 》

10月14日（土）に大学生が主催する地域交流会「出会いな祭（sai）」が開催され本校生徒も参加をいたしました。参加者は高校生から大人まで幅広く、地域を盛り上げたい、地域課題を解決したい人が意見交換をする場面が見られました。アイスブレイクでは「米沢の食べ物」について、スゴロクを有効活用して地域を知る活動等があり、大学生のリーダーシップ力に圧倒されました。



高校生マーケティングプロジェクト
《山形鉄道の新しい収益》

期日 10月21日（土）
時間 午後2時05分
場所 長井市役所2階
参加 本校3年生2名


《 私の高校時代 No3 》

「進学」という流れのある環境に身を置いていたので、自然と高校の次は大学に行くものだろうと思っていました。ですが、将来こんなことをしたいという希望もなかったため、ひとまず単純に好きなことが勉強できる大学・学部学科を調べていきました。それだけではさすがに将来が不安なので、就職活動の段階で特に目指したいものが見つからなかったときに参考になるように、仕事につながる資格がとれることも志望校を決めるうえでの条件にしました。

高校時代は、将来についてあれこれ友人同士話をしたり、相談し合ったりしていた記憶があります。自分の思いを口に出してみることで気持ちを整理できていたような気がしますし、友人から様々な刺激を受けることもありました。英語を使った仕事に就くことは選択肢の1つではあったものの、当時の私にはもう1つ夢中になっていたことがあり、どちらかというそちらの分野を学ぶことができる学校へ進学したいと思っていました。しかしよく調べてみると、その分野に携わる適性が私にはないと気がつきました。適性がないことは残念でしたが、何かに夢中になったことは学習への原動力になっていましたし、自分で調べたり行動したりしたこと、自分の適性について真剣に考えたことは、その後の人生のふとした瞬間に生きています。

高校入学時から卒業後は大学で経済を学びたい気持ちがありました。大学を資料やHPで調べたり親や担任の先生と相談したりして、1年生の後半には志望校を決めました。志望校決定後は、推薦での出願となるので、そのために必要な検定（全商簿記1級等）を2年次には取得できるように学習に取り組みました。また、3年次には商業系の推薦以外での推薦（語学系）も視野に入れ、英語検定2級・TOEIC等英語の勉強も行いました。更に進学後のことも考え数学の勉強も行いました。志望校を決めることも大切ですが、出願するためにはどんな条件が必要なのか、そのためには何をしないといけないのか、先々まで考えて行動することが大切だと思います。

高一の三学期あたりから進路について考え始めました。2年次には文系か理系かに分かれます。物理・化学選択は理系の定番ですが、漠然と生物系に進学して実験・観察をしたかったので、化学・生物を選択しました。

ところが、3年次になって興味関心は次第に生物から化学へと移っていきました。有機化学分野に入り、ベンゼン環（）について学ぶと、訳もなく「これだ！」と思い込みました。更に〇社の「全国大学学部・学科案内号」に「単細胞の頭でも大丈夫！」と書かれていた（と思う）ことを鵜呑みにして、農学部を目指すことにしました。オープンキャンパスやインターネットが普及していなかった時代を思うと隔世の感があります。雑誌や先輩の合格体験談を頼りに進学情報を探るくらいで、あとは自分の想像力を働かせて志望校を決めたわけです。もちろん、情報は大事ですが、過剰なノイズに振り回されないことも必要ではないでしょうか。

そういうわけで、進路決定は甚だいい加減（「ほどよい」という意味もあり。）な理由でしたが、「何とかなるさ」と楽観的に考えていました。やらないで後悔するより、やって後悔した方がよいというスタンスでがんばってみてください。